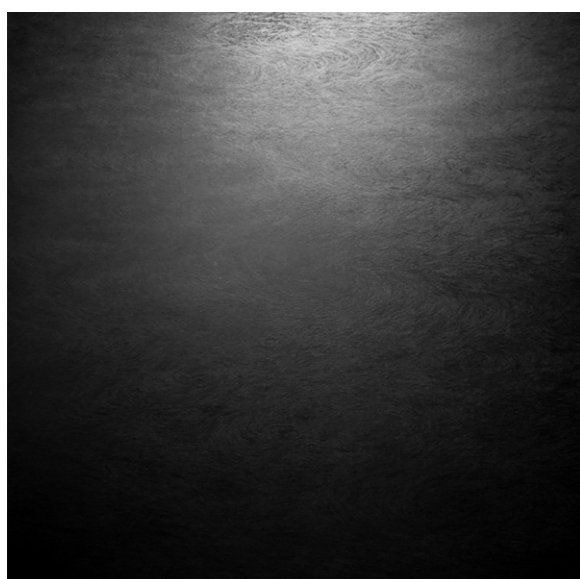
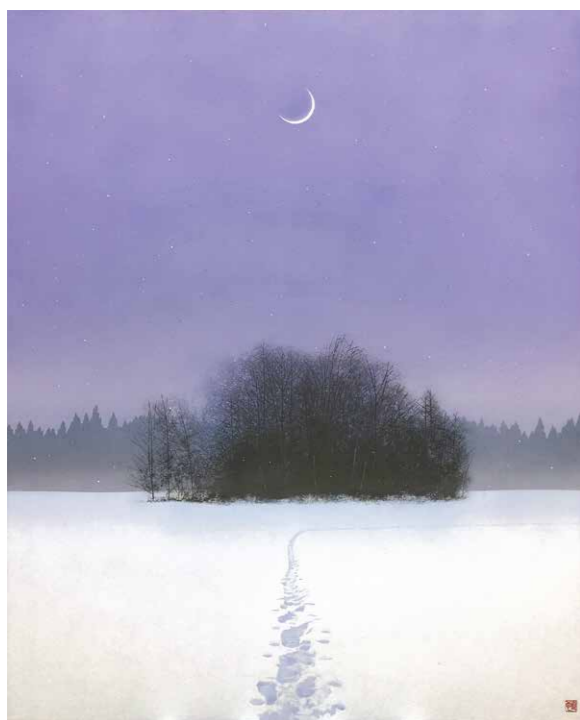


上/山本大也《コットン電光形線図》
2021年 油彩・鉛筆・顔料・ジェルメディウム、
パネルにカンヴァス 112×162cm
コットンの枝を中心に据え、全体のバランスを見極めテープを伸ばし、黄色が映えるようにシンプルに構成。作品名はそれが電光のようなラインに見えたことから付けられている。

中/江川直也《冬三日月》
2021年 岩絵具、和紙 73×60cm
凍てつく冬の夜、静寂に包まれた雪の積もる平野はまさに抒情的である。ひとすじの足跡の先に広がる森の上には、淡く優しい光を放つ三日月が浮かび、作品は閑寂さの中に奥深い美しさを湛えている。

下/梶岡俊幸《寂》
2021年 墨・墨汁・鉛筆、麻紙 162×162cm
「水」の動きをつぶさに観察して生まれた画面。わずかに動く風の流れや月明りの揺らめきをも感じ取り、表情豊かな水の姿を表現している。



技法で制作。実際に存在するかのよう
な、モチーフの超リアルな表現に驚か
される。注目したいのは、描く対象を
極力減らしたミニマムな画面構成であ
る。真白く広い空間に一輪の小さな花
のみを描いたり、そこへ糸や線、パタ
ーンなどをシンプルに描き入れたりす
るなど、考え尽くして組み立てられた
構成は、簡素でありながら洗練された
印象を受ける。鑑賞者は、この余韻の
広がりによって日本人らしい美意識を感じ
るだろう。

そんな山本と同じく具象画のジャン
ルで出品するのは、江川直也(88年生)。
豊かな自然を表現するため長野に移り
住み、伝統技法に独自の手法を加える
ことで、清新な風景を表現する日本画
家だ。2019年には山種美術館日本
画アワードで奨励賞を受賞している。
今回出展する江川の代表作のひとつで
ある《冬三日月》は、淡く繊細な紫を
基調に静謐な雪景を描いている。作品
に込められた自然の美しさと神々しさ
が、観る者に安らぎを与えてくれるに
違いない。

残るひとり、黒一色で豊かな「水」
の表現を追求し続ける日本画家の梶岡
俊幸(78年生)。隅田川で出会った水
の動きに生命の根源を感じて始まった
という主題は、現在アトリエを構える
滋賀に移り住んでからも続いている。
墨と鉛筆で描かれた作品は、揺れ動く
水の表情を情緒漂う独自の世界へと昇
華させて美しい。
ギャラリーためながの作品群の質の
高さは、やはりさすがである。

information

住所 ● 東京都中央区銀座7-5-4
電話 ● 03-3573-5368
開廊時間 ● 11:00~19:00(日・祝日は11:00~17:00)
休廊日 ● 無休
アクセス ● 東京メトロ「銀座」駅より徒歩5分
URL ● tamenaga.com

パリ店 ● 18 Avenue Matignon 75008 Paris
大阪店 ● 大阪府大阪市中央区城見1-4-1
ホテルニューオータニ大阪1F
京都店 ● 京都府京都市東山区川端通七条上る
上堀詰町265-7



質の高さは今年も健在!
多彩な人気作家5人が集結

ギャラリーためなが
galerie taménaga

出展ブース
N 048



吉川民仁《花菜風》 2021年 油彩、カンヴァス 91×117cm
左官ごてを用いて画面全体へと大胆に絵具を伸ばし、幾層もの色彩を創り出す。さらにそこへ、ペインティング
ナイフなどで少量の鮮やかな絵具を画面に点在させたり、引っ掻きの線跡を加えたりすることで、自然界の様々
な表情を表出させている。写真提供:ギャラリーためなが(この見開きすべて)



北川麻衣子《踊らにゃ損損》
2021年 ダーマトグラフ、パネルにケント紙 112×146cm
姿を变幻自在に変える動植物は、北川が幼少時に創り出したものだという。野の花々が所せましく
咲き誇る森の舞台上、生きものたちが楽しげに踊り、幻想的な物語を繰り広げている。

日本を代表する老舗画廊、ギャ
ラリーためながは、今回気鋭の現
存作家5名にスポットを当てる。
まずは2018年から連続して出品
している吉川民仁(1965年生れ)。深
みのある色調で描かれた抽象的な画風
は、長い活動の間にさらに進化を押し、
昨年春には東京と大阪の同画廊で大規
模な個展も開催された。四季折々に変

化する風や光の様相に触発されて生ま
れた詩情豊かな抽象空間は、まさに吉
川ならではの。色面の奥に広がる心象的
な自然の風景を堪能してほしい。
2人目は北川麻衣子(83年生れ)。東
京藝大の博士課程を修了、ダーマトグ
ラフによるモノクロームの画面に擬人
化した動物たちを登場させた独創的な
作品によって、国内外で高い評価を得

ている画家である。豊かな想像力と高
度な技術力が紡ぎ出す荘嚴な画面は、
非現実的な舞台設定であるにもかかわ
らず、リアルな生あるものへの深い愛
情を想像させて興味深い。会場では特
殊な素材から生み出される美しいグラ
デーションにも注目したい。
3人目の山本大也(86年生れ)は、
西洋画の伝統的なトロンプ・ルイユの